

地域資源デジタルアーカイブへの付加価値情報の追加

～沖縄県の観光とカフェ～

比嘉舞姫、加藤真由美（岐阜女子大学）

1. 観光県である沖縄の課題解決に向けて

2020年1月以降、沖縄県は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で観光客が激減し（国土交通省「令和3年版観光白書」参照）、観光業が危機的状況にあるという課題がある。この課題解決のため、本学の沖縄地域資源デジタルアーカイブを活用し、これに付加価値情報として近隣のカフェ情報を追加して1つの観光資源として発信するデジタルコンテンツを開発した。

総務省の調査（平成26年）では人口1千人当たりの喫茶店数は1位が高知県、2位が岐阜県、3位が喫茶店のモーニングサービスで有名な愛知県などという結果であり、10位までに沖縄県は入っていない。しかし、観光県である沖縄には沖縄の魅力を伝えられるカフェが多くあるのではないかと考え、観光地情報への付加価値情報としてカフェに着目した。

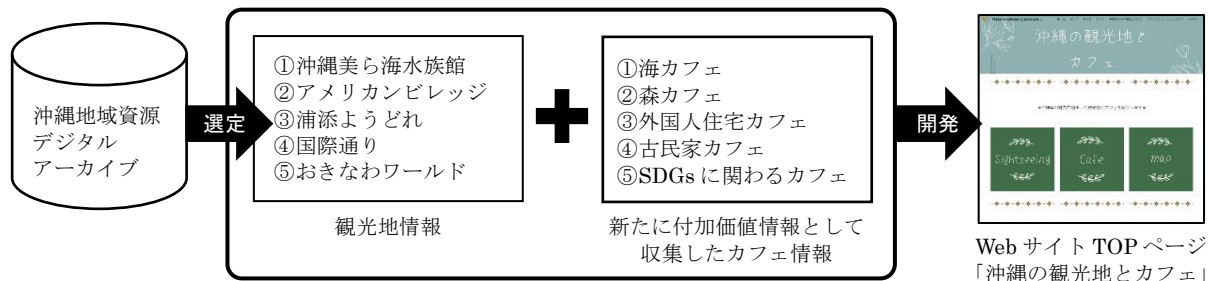


図1 本学の地域資源デジタルアーカイブに付加価値情報を追加し新たな観光資源として発信

2. 付加価値情報の調査と分類、収集

(1) 付加価値情報の調査

付加価値情報について①～④の調査を行った。

- ① 日本国と沖縄県の観光に関する政策や統計のオープンデータの調査
- ② 沖縄の観光情報およびWebサイトに発信されているカフェ情報の構成の分析
- ③ 観光行動論の観点から観光旅行の移動パターン
- ④ カフェの歴史や定義、場所としてのカフェ（サードプレイス）の価値

(2) 付加価値情報の分類

近年のカフェブームにおいてテレビやラジオの番組でも「〇〇カフェ」ということばをよく耳にする。例えば、NHK テレビ番組「ふるカフェ系 ハルさんの休日」内では「古民家カフェ巡り」やNHK ラジオ番組「田中美佐子の海カフェ」などである。沖縄にも沖縄の魅力の詰まった「〇〇カフェ」があると考え、これについて分析した。結果、沖縄観光の魅力を「青い海」「熱帯気候による豊かな森林」「外国人住宅」「沖縄の赤瓦古民家」「青い海や豊かな森林を守るためのSDGsの

取組み」の5つに絞り、表1のようにカフェの分類を作成した。このように情報を分類することで利用者に「選択」を促すことができる。

表1 カフェの分類と説明（簡易版）

カフェの分類	説明
海力カフェ	真っ青な海を眺めながら食事を堪能でき、沖縄の魅力を最大限に感じられる。
森力カフェ	森の中に入り、隠れ家にいるような気分で自然豊かな沖縄を堪能できる。
外国人住宅カフェ	古き良き外国人住宅の風景を残しながら改装された店内で、レトロでお洒落な空間を楽しめる。※外国人住宅…米軍基地関係の軍人やその家族のために建てられた住宅。
古民家カフェ	沖縄の赤瓦の古民家を改装し、沖縄独自の雰囲気やゆったりした沖縄時間を楽しめる。
SDGsに関わるカフェ	企業においてもSDGsに対する姿勢や取り組みが重視されている中、カフェでもその一環としての活動や取組みを独自に行っている。

(3) ユニークな付加価値情報の決定と収集

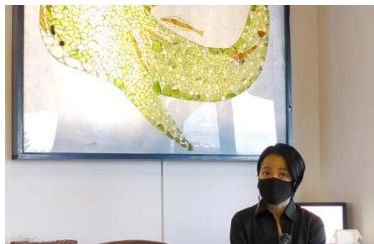


図2 浦添ようどれの近隣カフェ「清ちゃんカフェ」取材の様子
▼オーナーの島田春奈さんは営業の合間にビーチクリーン活動や海岸に落ちているシーグラスを活用したシーグラスアート制作も行っている。



図3 美ら海水族館の近隣カフェ「Ma-Blue Garden House Hawaiian Style Bakery & Cafe Restaurant」Webサイトに掲載した“顔が見える”カフェ情報
▼カフェのコンセプトや地域への思いをインタビューした。

付加価値情報として発信するカフェ情報は店舗名、概要、外観・内観の映像、所在地情報などの基本情報のほかに、ユニークなカフェ情報を発信したいと考えた。

農業や水産業等の食品産業では生産者の“顔が見える”商品が消費者の安心や信頼につながっていることから、カフェのオーナーや店員へのインタビューを記録・収集し“顔が見える”カフェ情報として発信することにした。

その後、本学の沖縄地域資源デジタルアーカイブから選定した5カ所の観光地の近隣で(2)の分類に当てはまるカフェを14店舗選定し、電話での取材依頼・日程調整の後、取材を行った。同分類のカフェでもコンセプトや地域への思いが異なり、“顔の見える”情報の有効性を再確認できた。

3. 付加価値情報としてのカフェ情報とデジタルアーカイブを活用した地域資源情報



図4 開発したWebサイト(左)沖縄美ら海水族館のページ(右)沖縄美ら海水族館の近隣カフェ「Ma-blue Garden House」のページ；観光地情報とカフェ情報、双方からリンクしており両方を閲覧できる。

公開されているWebサイトでは観光地情報とカフェ情報のどちらかに偏りがあったり、一方の情報だけを掲載しているWebサイトが多かった。はじめに設定した課題解決のためには観光客に観光地とカフェの双方を訪れることを促したため、双方の情報へのアクセシビリティをスムーズに行うことができるコンテンツ開発にこだわった(図4)。

また観光地と近隣カフェ(分類ごとにピンの色をかえた)をプロットしたGoogleマップを埋め込んだページも設け、沖縄全島から分類ごとのカフェの位置や観光地の位置を確認できるようにした。

(本稿は、比嘉舞姫 学士論文(令和3年度受理)「地域資源デジタルアーカイブへの付加価値情報の追加～沖縄県の観光とカフェ～」から、調査結果の一部を元にまとめたものである。)